

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501817		
法人名	株式会社 風和里		
事業所名	グループホーム末広 ふわり藻岩下 1階		
所在地	札幌市南区藻岩下4丁目2番7号		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0190501817-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境に立地しており、四季の変化を肌で感じることができる。施設内は木のぬくもりを感じられる内装とオレンジを基調とした居心地の良さを表現しています。
 小高い場所に立地されているため見晴らしも最高な環境である事がPRしたい点だと考えています。
 町内の方々も姿が見えたと挨拶をしてくださり、穏やかに過ごして頂けるライフスタイルがここにあります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年12月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かで眺望にも恵まれた南区藻岩下の住宅地に開設した2ユニットの事業所である。周辺にはスキー場、教会、公園等が点在し、季節の移ろいを楽しめる静かな環境である。まだ木の香りが残る新築2階建ての建物で、窓からの見晴らしは良く、札幌の市街が一望できる。リビングの天井は木目調の木の梁をデザインし、ソファや食卓椅子はメンタルケアに効果がある、オレンジ色のビタミカラーに統一している。利用者がゆったりと自立した生活が送れる様な居室の配置や3方向から介助可能な浴槽を設置した浴室、トイレの便座の配置もプライバシーに配慮する等、運営者の拘りが隅々に活かされた居住空間となっている。管理者、職員は、利用者と共に過ごす時間を大切に、生き生きとした姿や笑顔に結実したケアサービスにあたっている。利用者の機能回復や低下予防に効果を上げる為に、きめ細かな介護計画を作成し、朝のラジオ体操、軽体操、余暇活動、個別レクを盛り込んで、利用者の自信に繋がる自立支援に取り組んでいる。運営法人は職員のスキル向上への支援として、系列事業所合同研修会を定期的開催し、人員の配置に関しても連携を図り、協力体制が築かれている。町内会や近隣住民との関わりも、運営推進会議に多くの知見者の参加を得て、事業所の課題解決への協力や支援を頂き、利用者は町内会行事に参加し、子供との触れ合いを楽しんだり、散歩時や回覧板を回す時も職員が伴い、積極的に挨拶を交わす等、地域住民との交流を育んでいる。まだ2年目の事業所であるが、利用者にとり、ここを第二の安住の場として安心して暮らせる様に、管理者、職員は基盤作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の大切さを会議や研修を通して周知申し送りの最後に勤務職員と声を出して読み上げて今日も頑張ろうという気持ちを共有している。	グループホーム介護理念を、系列事業所との共通理念として掲げ、パンフレットや各ユニットに掲示し、職員は日々、唱和する事で共有を図り、意識を高めている。会議では、理念がケアに反映されているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際やホームの周辺の方には挨拶している。 町内会行事のジンギスカンパーティーに参加させて頂く。	町内会行事のジンギスカンパーティーで利用者が子供達に菓子を配り、触れ合いを楽しんでいる。畑作業や散歩時、回覧板を届ける際に、挨拶を交わすなど、徐々に交流を深めている。町内会とは、ボランティアの紹介や捜索支援等で情報や協力を頂くなど、着実に関係性を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	その様な機会は設けていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進で話し合った内容については入居者様のご家族に会議議事録を送らせて頂いている。 サービスの向上には至っていない。	2ヵ月毎に開催される運営推進会議は、包括支援センター職員、町内会役員、家族に加えて、多くの知見者の参加を得て、多様な話題で双方向の会議となっている。事故やヒヤリハットの分析、避難訓練、介護保険法の改正など話し合い、会議の充実を図っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。 区役所保護課の職員と連携し病院受診時の報告や情報を共有している。	行政とは主に本社の統括部長が中心となり対応しているが、利用者に関する課題について、保護課と連携を図り協力関係を築いている。市や区の管理者会議や集団指導に参加し、情報を共有している。今年度は介護保険課の実地指導を受け、事業所の質の確保に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては研修、全体会議の時に取り組みを積極的に取り組んでいる。 しかしながら離脱事故があり、玄関ドアとリビング1階には施錠をさせて頂いている。(ご家族のご意向あり)	身体拘束廃止適正化の指針を定め、委員会は運営推進会議内で開催している。内部研修で身体拘束の内容を学び、不適切な言葉は職員間で注意し合い、更に、目標や注意事項を書き記し、職員の目に付く場所に掲示して、注意喚起を促している。リスクに関しては家族と十分話し合い、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。虐待防止のビデオ活用したり勉強会を開き職員が日常の対応している事が虐待に当たらないかの、振り返りをしながら学習を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階ではご家族様が成年後継人制度を活用されている。個々の必要性に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の際には入居者様、ご家族様の疑問があれば十分説明させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をさせて頂いている。その他来訪時にご家族様と会話の際に最近の様子などをお聞きしている。	家族の訪問時や運営推進会議に参加の際は、率直に意見等と言って貰える関係に努めている。家族とのやり取りは記録に残し、利用者家族の不安等が軽減出来る様に、介護計画や運営面に繋げている。居室担当職員から家族へ個別のコメント等を記載した便りが届けられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの際などに提案している。反映されているかは不明。	毎月のカンファレンスには、勤務以外の職員も出席する等、運営に対する職員の意識の高さが窺える。会議には本社の統括部長も参加する機会が有り、職員の意見や要望、情報など、直に聴き取り運営に活かしている。統括部長による個人面談でも、職員の課題や目標を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのため研修に参加して貰いやりがいや向上心を持って働けるよう努めている。また交通に不便という事で調整手当の支給をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量やその職員にあった研修を受けて頂けるようにしている。受講料は会社で負担し職員が安心して学べるような取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内では救命講習やメンタルヘルスの研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書の確認、ご家族からの情報、ご本人のお話を、傾聴し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の来訪時には必ずご挨拶をさせながら、困っていることや要望が話せるような時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	おむつサービスなどの利用があれば説明をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護をするという上の立場になるのではなく言葉使い(スピーチロック)の研修を内部研修で学びながら暮らしを共にする者同士になれるように努力している最中。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時ご本人様の様子をご家族様にお伝えして現状を共に共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様に伺い把握していたとしても馴染みの人や場所との関係がとぎれないような支援は難しい。ご家族様のご協力に頼っているのが現状。	家族と連れだって、馴染みの理髪店に出かけたり、実家への帰省、墓参り、温泉を楽しむなど、昔からの生活習慣を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を良好に保つため席や座る場所の配慮をしている。 職員が介入し入居者同士、取り組める場所づくりの工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為の退去、死亡による退居があるが相談支援までに至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活リズムや考え方を尊重し努めている。	入居前の生活歴や職歴を基に、利用者を理解する為のアプローチを一つひとつ丁寧に行い、思いの汲み取りに努めている。掃除が得意な方、食事の準備が好きな方など、プランに反映させて、役割を担って頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を参考にして趣味など会話の中で探しながら職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事やしたい事などを把握して職員が係わりを持って行動している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子をカンファレンスで話し合っている。プランに反映するように反映するように努めている。	利用者、家族の意向を踏まえ、利用者にとって最善のケアを模索し乍ら、3～4か月毎に介護計画を見直している。毎月のカンファレンスでモニタリングを行い、介護支援専門員を中心に、利用者の出来る事、出来ない事を全職員で確認、協議、検討し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申送り時やケース記録に記載してプランの見直しに努めている。具体化しているとはいえない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスと異なる意見がある時は職員で話し合いを行い、試してどうかを検討している。柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援には至っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人を診てもらえるような医師を探し支援している。	今年10月に変更した協力医療機関とは24時間連携体制が整備されおり、現在は利用者全員が主治医とし、月2回の往診を受けている。専門医への受診は職員が支援している。週1回の訪問看護師に利用者の状況を伝え指導を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度訪問看護では入居者様の変化やケア方法について相談して支援に生かしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーの方との情報交換を行う。また入院中の面会で様子を把握したり退院後も安心出来るように努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際重度化終末期に向けた取り組みを行っている事はお伝えしているが実際には支援はしていない。	「重度化した場合における介護(看取り介護)」指針を作成し、契約時に説明している。状況変化時には繰り返し話し合いと段階的な合意の必要性から、改めて「看取り介護同意書」を作成し、事業所は利用者や家族の意向に沿った看取り支援に向けて体制を整備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命講習会に参加している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は災害マニュアルを確認し避難場所についても周知している。地域の協力体制については具体的に協力体制は整っていない。	今年度は5月と11月に昼・夜想定避難訓練を防火設備会社の立ち合いと消防署の指導を受け実施しているが、地域住民参加には至っていない。救急救命訓練の講習、避難場所の確認、災害備品や防寒器具は確認している。	災害は予測不能であり、職員だけの誘導の限界を踏まえ、地域住民の協力が欠かせないので、積極的に地域に働きかけ協力体制の強化を図る事を期待したい。訓練も、自然災害や停電などの予期せぬ事態を想定した災害対策への取組にも期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重するように対応している。	職員は接遇研修を受けており、利用者に対して敬意を払い、尊厳を損ねる様な不適切な言葉かけにならない様に留意している。トイレ、浴室、居室等のプライバシー空間での対応に気を配っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなくご本人が選択できるように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせてながら行動や言動に耳を傾け寄り添う支援を行う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝着る服などをお好みで選んでいただいたり訪問美容の際、長さなど美容師さんに伝えて満足して頂くように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きをして頂いたり、下膳をお手伝いして頂いている。食事を楽しんで頂けるかは不明。	食事は会話を楽しみながら、利用者と職員が和やかに食卓を囲み、後片付けや食器拭き等も一緒に行っている。献立や食材は業者に委託しているが、栄養バランスが良く、バラエティーに富んだ食事を提供している。畑で収穫した旬の野菜も食卓を豊かにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューについては栄養士の方が栄養のバランスを考えたメニューとなっている。嫌いなものや制限された食品に関しては別メニューとして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様全員が口腔内の清潔保持に努めている。介助の必要な方には力に応じて声掛けしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握する事でおむつの使用を軽減するようにトイレ誘導を行う。、昼間と夜間の失禁の有無に応じて下着、リハパンに適宜に交換し過ぎて頂き支援している。	清潔で心地よく過ごすために、個々の排尿パターンをチェックしている。5割の利用者が自立しているが、他の利用者には声掛けや手引き誘導でトイレ排泄を支援している。日中・夜間、身体状況に即して、ポータブルトイレ使用や下着と衛生用品の使用調整など、快適さを求めて工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供している。水分量や腹部マッサージや温めるなどを行い、往診医の支援を受けながら取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決めていないが声掛けしご本人の意思を尊重し希望の限り希望に沿った支援を行う。しかし職員の都合で入浴を決めてしまう事がある。	入浴は週2回を目安に支援し、湯船で寛いで頂ける様に、一人ひとりのペースを大事にしている。シャワー浴や足浴も行い、入浴拒否が見られたら、誘導の工夫を重ね、夜の入浴も対応している。入浴剤でのリラックス効果に加え、職員との1対1でスキンシップを図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせてたり、夜間の睡眠状況に応じて支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時の確認、変更後の状況確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課となり自ら「やるよ」と言って下さり食器拭きや盛り付けを行ったり、掃除のお手伝いをしてくださったりしている。生活歴を活かして役割を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や畑仕事、ドライブなど外に出る機会は何度かあったが少ない。ご家族の御協力をお借りしてスポーツ観戦や昔から住んでいた家に帰り安心して帰って来られる、などご家族様と協力しながら支援している。	気候の良い時期は、テラスでの日光浴や散歩、畑作業などで外気浴を楽しんでいる。また、季節に応じて、こぶし公園の桜見物、芸術の森見学、外食、定山溪ドライブなど外出の機会を持ち、気分転換を図り、自立支援にも繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にとって大切だが難しい面もあり基本的にはお預かりはしていない、必要に応じて買い物の際には支援させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは出来ていない。電話は必要に応じて支援はしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる飾り物や写真を壁に貼ったりしている。環境整備を心掛けている。	藻岩山の麓に建つ事業所なので、窓からの見晴らしは良く、札幌の街が一望できる。リビングの天井は高く、窓も大きく、ソファや食卓椅子がビタミンカラーに統一されていて、全体的に明るく開放感のある空間になっている。トイレ便器の配置や浴室の浴槽が3方向から支援可能な設計で安心、安全に配慮されている。季節の飾りつけや利用者の作品等が掲示され、温かで居心地良く過ごせる居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ以外にも一人掛けの椅子を置き気の合った方が二人で座り会話されている空間づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に使い慣れた物やご本人の気に入っている家具を使用されている。職員は清掃し快適に過ごせるように配慮している。	居室にはクローゼットが設置され、ベットも用意されている。利用者は家族と相談の上、家具や生活用品などを持ち込み、暮らしの形を整えている。大切な家族の写真や仏壇を傍に置いて、安らげる空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており転倒に繋がらないように物の位置を工夫を行っている。居室の入り口には名前や目印を付けご自身の部屋と分かるように工夫をしている。		